

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング

【施策番号 25105：生活習慣病・難治性疾患克服総合研究

(1) 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究(厚生労働省)】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 14 日(火) 12:25～12:40
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 12 階 共用 1208 特別会議室
- 3 聴取者：本庶議員、奥村議員
外部専門家 9 名(うち若手 4 名)
- 4 説明者：厚生労働省 健康局 総務課 生活習慣病対策室 宮寄雅則 室長
健康局 総務課 生活習慣病対策室 高城亮 室長補佐
滋賀医科大学・生活習慣病予防センター 上島弘嗣 教授

5 施策概要

(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究)

本事業では生活習慣病の予防から診断、治療まで、疫学研究や介入研究等を行うことにより、生活習慣病対策に必要なデータを体系的に得て、その成果をより効果的・効率的な施策へと結びつけていくことを目的とする。

6 質疑応答模様

【本庶議員】

基本的には疫学研究が中心か？

【厚労省】

今日は「生活習慣病の予防、診断」の部分の説明である。疫学的なコホート研究、基礎的な研究、検診に関する研究など多分野に渡って、生活習慣病予防に資する研究を行っている。

【本庶議員】

予算の内訳は？

【厚労省】

24 億円のうち 12 億円が生活習慣病、残りがアレルギーと腎疾患。

【本庶議員】

生活習慣病の対策として、具体的には厚労科研費の一部で、公募研究でやっているのか？

【厚労省】

一部指定はあるが、それ以外は公募している。

【本庶議員】

そうすると予防、診断から治療まで、かなり幅広い研究になっている？

【厚労省】

検診に関する研究、男女性差に関する研究、運動と生活習慣病に関する研究、栄養状態に関する研究、タバコに関する研究、循環器に関する研究、などを進めている。

【本庶議員】

毎年お願いしているが、厚労科研費の大きな話を持ってこられるときに、具体的に何をやっているのか、採択課題の一覧表などがないと、有識者の先生方は評価できない。

【外部専門家】

疫学調査は非常に重要だと思う。ただ日本の疫学研究の状況は中身や目的がバラバラで将来に生きてこない。系統立って、長期戦略に立って、地道にデータを蓄積して欲しい。環境省のエコチル調査とか、いろんな疫学調査があるが、皆バラバラ。せっかくやるなら、統一して一気にやった方がいい。日本の疫学研究を是非ともボトムアップして欲しい。その方向に関して、今後どういう施策を考えているのか、お聞きしたい。

【厚労省】

久山町など50年の歴史がある。10数年の歴史があるものなどを集めて、若い人の教育も含めてやっている。日本データ等は、国を代表するコホート集団で、追跡をちゃんとやっている。2010年には、新たに国民健康・栄養調査でコホートを立ち上げて、追跡を行う計画をしている。我々も、そのような努力をしながら、ここで人材を育て、かつ、がんと疫学をここで一度に統合するのは無理なので、各研究者の得意の分野を合わせながら、議論をする場を作っていきたい。

【外部専門家】

疫学研究にはもっとお金をかけて、これこそ国家プロジェクトとして厚労省直轄の研究所がリードして推進していただきたい。

【本庶議員】

予算額はいくら？

【厚労省】

約 5000 万円程度である。

【外部専門家】

ゲノム研究に比べて 2 桁も違う。

【外部専門家】

私も大賛成。国民の医療を考えたとき、予防が一番安上がりである。

以上